

平成30年度 学校評価実施報告書

学校名 (太秦中 学校)

教育目標

校是 「自立と貢献」

○目指す子ども像

- ・夢や目標をもち、自ら学ぶ意欲のある生徒
- ・心身ともに健康な生徒
- ・お互いを認め合い、自他を大切にする生徒
- ・TPOに応じた行動をし、礼節を重んじる生徒

年度末の最終評価

自己評価

教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し

- ・夢や希望をもたせる指導を心がけたが、アンケート結果には反映されなかった。ただし、生徒には影響を及ぼしていると思われる。今後も引き続き、実施していく必要あり。
- ・学習結果（学プロ等）から見てもわかるように学習に前向きに取り組ませることが出来た。
- ・カリマネを意識した学校運営ができた。
- ・各分掌でPDCAを積極的に行うことができ、よりよい行事等の学校教育活動ができる下地ができつつある。
- ・本校生徒を分析し、不足していると考えられている能力「自ら考え行動する」「協働できる」を次年度学校目標に原案として作成できた。

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・よくやってくれていると評価していただいた。
- ・学校から外部人材等の相談・依頼があったときには、協力させてもらうと約束してもらえた。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	11月12日	学校運営協議会
最終評価	3月7日	学校運営協議会

(1)「確かな学力」の育成に向けて『学力向上プラン』

重点目標

「授業力の向上」と「家庭での自学自習の習慣をつける」

具体的な取組

- ・授業改善に向けた校内授業研究（１１月）、小中合同授業研究（６月・１０月）の推進。
- ・校外の研修会や授業研究会等への参加の積極的推奨と、学んだことを校内で共有する研修の充実。
- ・授業改善に向けた教科会の充実。
- ・自ら課題を見つけ、自主的に取り組む家庭学習の定着。
- ・朝読書のさらなる充実。
- ・図書館活用の推進。
- ・学生ボランティアを活用した、学習会（土曜学習・みらした事業）のさらなる推進。
- ・授業力向上を目指した「若手・中堅教員実践道場」や「授業力向上チーム」による授業研修のさらなる推進。
- ・学力向上を支える大きな機能の一つである、「生徒指導力」の向上を目指した取組の推進。
- ・計画的な授業実践のための、年間の学習指導計画の作成。
- ・学習確認プログラムの分析と定期的アンケートの実施。

（取組結果を検証する）各種指標

- ・ジョイントプロ・学プロ・全国学力・学習状況調査の分析結果。
- ・家庭学習での点検結果。
- ・生徒・保護者アンケートの結果
 - ①自ら学ぼうとしていますか。
 - ②読書の習慣がついていますか。
 - ③家で宿題や学習はしっかりやっていますか。
- ・教職員アンケートの結果
 - ①生徒は自ら学ぼうとしていますか。
 - ②生徒は読書の習慣がついていると思いますか。
 - ③生徒は家で宿題や学習はしっかりやっていると思いますか。

中間評価

各種指標結果

- ・ジョイントプロ １年（全市平均との比較）＋４.２
- ・学プロ ２年（全市平均との比較）＋２.４，３年（全市平均との比較）－２.９
- ・全国学力 ３年（全国平均との比較）国語 A-3.１，国語 B-2.２，
数学 A-4.１，数学 B-3.９，
理科 -5.１
- ・生徒・保護者アンケートの結果
 - ① 自ら学ぼうとしていますか。
生徒は，適合度は９６％だが，実現度は６８％と低い。また，できていないは３２％と低い。
保護者は，できていないと感じているはさらに低く３８％である。
 - ② 読書の習慣がついていますか。
読書の習慣がついているは生徒は６３％，保護者は４０％である。
 - ③ 家で宿題や学習はしっかりやっていますか。

	<p>生徒は74%, 保護者は63%が「できている」と感じている。</p> <p>ただし、「よくできている」は、生徒は26%, 保護者は16%とかなり低い。</p> <p>・ 教職員アンケートの結果</p> <p>① 生徒は自ら学ぼうとしていますか。</p> <p>63%がしていないと回答。</p> <p>② 生徒は読書の習慣がついていると思いますか。</p> <p>81%がしていると回答。</p> <p>③ 生徒は家で宿題や学習はしっかりやっているといますか。</p> <p>59%がしていないと回答。</p>
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年において学プロ1回目に大きな学力の向上が見られた。学習の仕方を粘り強く教えたことや学習課題を与え続けた成果であること、また授業の工夫により学習に対して意欲が向上したのではないかと考えられる。 ・ 3年においては、2年時の前回の結果とあまり変化がない。次回により変化が現れるように取組を強化する必要がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年においては学習意欲向上に向け進路や将来の話をする。 ・ 宿題として一定量の家庭学習を与えることを継続、または新たに行う。 ・ 家庭学習の習慣をつけることと家庭学習を行う意義を引き続き訴えていく。 ・ 読書に興味を持てるように本の紹介や図書室の利用を増えるように広報していく。 <p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より自ら学ぼうとする意欲が高まりましたか（共通）。 ・ 宿題は適量でしたか（生徒）。宿題を十分出してきましたか（教職員）。 ・ 十分学力がつけましたか（共通）。 ・ 図書の習慣は前回時よりつけましたか（共通）。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読書をしっかりさせることは大事。 ・ 本を読むことにより想像力が養える。本の紹介をどんどんやってほしい。 ・ 教師にアンケートを採ったことは評価。 ・ 生徒、保護者の%と教師の%の幅が大きい。 ・ こども目線で見られているか、生徒理解・保護者理解ができていると、数値が近づく。そのことが大事。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前回より自ら学ぼうとする意欲が高まりましたかは、3者（生徒・保護者・教職員）とも数値向上。 ・ 「宿題は適量でしたか」は、生徒65%のみ好回答（よく、またはだいたい）。
--

	<p>「宿題を十分出してきましたか」は、65%とばらつきがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「十分学力がつけましたか」は生徒・保護者は57%が好回答。教職員は62%が好回答。 ・「図書の習慣は前回時よりつけましたか」は、生徒66%、保護者40%、教職員58%が好回答。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意欲の高まりが学力結果（向上）につながったと思われる。 ・家庭学習について生徒の意欲を出す方法、教職員側の出し方を工夫する必要がある。 ・図書の習慣の評価はむずかしく、工夫が必要。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伸ばす資質、能力を見据えた授業を行う。 ・学プロの結果分析と全体への周知。 ・長期休業中の家庭学習提供。 ・朝読書の徹底とさらなる図書室整備、図書室からの「たより」等の発信における読書への興味付け。 <p>重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業力の向上にむけては個人差があるものの達成できたのではないと思う。 次年度はさらなる向上のために生徒指導力向上のための研修会（通常研修会、若手中堅道場）や教科会の増設及び内容の工夫、学力分析をさらに進めていく必要がある。 ・家庭での自学自習の習慣づけについては、達成できたとは言えない。家庭学習の量・質・出し方について考える必要がある。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力分析は平均だけでなく、分布分析もお願いしたい。低得点者の把握と支援をお願いしたい。 ・学校からのお願いとしての学生ボランティアについて、いたら連絡すると言ってもらえた。

（２）「豊かな心」の育成に向けて

<p>重点目標</p> <p>自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度の育成</p>
<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・<u>道徳教育の在り方について、「それ自体が学習経験となる『評価』を目指し、研究を進める。</u> ・<u>生徒たち自身の手による「より質の高い集団作り」に向け、生徒会活動の一層の活性化を図る。</u> ・<u>「生徒を切り捨てない」「生徒を切り離さない」を基底に据え、共感的な生徒理解に基づく個に応じた指導の推進を図るとともに、生徒相互、生徒相互、生徒と教職員の受容的・共感的な関係の深化を図る。</u> ・<u>学校経営の柱に「受容的・共感的な人間関係の育成」を置き、一人一人が大切にされていると実感できる学級づくりを推進する。</u> ・研修等を通じ、教職員のスキルアップを図り、よりよい「教育相談」の実践を推進する。 ・<u>「尊厳」をキーに、教育活動全体を通して、人権尊重の精神を育む。</u>
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者アンケートの結果 ①夢や目標を持っていますか。

- ②相手を認め、他人を大切にしていますか。
- ③自分を認めてもらっていますか。
- ④自分を大切にしていますか。
- ⑤あいさつするなど礼節を重んじた行動ができていますか。
- ⑥気持ちよく学校に行くことができますか。

・教職員アンケートの結果

- ①生徒は夢や目標を持っていると思いますか。
- ②生徒は相手を認め、他人を大切にしていると思いますか。
- ③生徒は自分を認めてもらっていると思いますか。
- ④生徒は自分を大切にしていると思いますか。
- ⑤生徒はあいさつするなど礼節を重んじた行動ができていると思いますか。
- ⑥生徒は気持ちよく学校に行くことができますか。

中間評価

各種指標結果

・生徒・保護者アンケートの結果

- ① 夢や目標を持っていますか。
「持っていない」と答えた生徒は30％，保護者は31％。
- ② 相手を認め、他人を大切にしていますか。
「できていない」と答えた生徒は8％，保護者は6％。
ただし、「よくできている」と答えた生徒は41％，保護者は30％。
- ③ 自分を認めてもらっていますか。
「認めてもらっていない」と答えた生徒は26％，保護者は12％。
- ④ 自分を大切にしていますか。
「大切にしていない」と答えた生徒は18％，保護者は8％。
- ⑤ あいさつするなど礼節を重んじた行動ができていますか。
「できていない」と答えた生徒は12％，保護者は13％。
- ⑥ 気持ちよく学校に行くことができますか。
「できていない」と答えた生徒は22％，保護者は9％。

・教職員アンケートの結果

- ① 生徒は夢や目標を持っていると思いますか。
「持っていると思う」は、48%。
- ② 生徒は相手を認め、他人を大切にしていると思いますか。
「思う」は85%。
- ③ 生徒は自分を認めてもらっていると思いますか。
「思う」は82%。
- ④ 生徒は自分を大切にしていると思いますか。
「思う」は77%。
- ⑤ 生徒はあいさつするなど礼節を重んじた行動ができていると思いますか。
「思う」は63%。

<p>⑥ 生徒は気持ちよく学校に行くことができていると思いますか。 「思う」は 96%。</p> <p>※学習状況調査の分析結果 主なもの（全国平均との「1. 当てはまる」の比較）</p> <p>1 自分にはよいところがある -6.1</p> <p>2 先生は、あなたのよいところを認めてくれる -8.7</p> <p>3 将来の夢や目標を持っているか +2.8</p>	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> あらゆる学校教育活動を行うにあたって、学校教育目標を意識した指導を行ってきた成果がよい結果（評価）となっていると考えられる。課題は100%になっていない点であり、それにむけてやっていく必要がある。 生徒と教職員の認識にずれが生じている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員会議や研修等で学校教育目標を絶えず確認していく。 教職員が現状を認識し、意欲的にかつ目標に的確に合った指導を行っていく。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向けアンケートにて <ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動において、学校教育目標に照らして指導できましたか。
学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> 先生は気持ちよく学校に来ていますかを聞いてみてはどうか。 「自分によりよいところがある」の数値が低いですが、それは自分を厳しく見ているからではないか、マイナス思考でないマイナスではないか。 生徒が気持ちよく学校に行くことが出来ている 96%は、生徒が付度しているのでは。 学校、家庭で生徒・子どもを認めてやろう。言葉をかけていくことが大事。

最終評価

<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員向けアンケートにて「学校教育活動において、学校教育目標に照らして指導できましたか」は、「だいたい・・・」が76%であった。 「先生は気持ちよく学校に来ていますか」の好回答は76%。 	
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒のアンケート結果は少しよかった。 「夢や目標を持っていますか」のアンケート結果は思ったよりよくなかった。 途方もない夢みたいな目標から目指すべき目標や夢を考えたので、ポイントがマイナスになったのではないだろうかと思われる。今後は、夢や目標を持つことの大切さを理解させつつ、実現するための能力を高める必要がある。 「相手を認め、他人を大切にしていますか」や「自分を認めてもらっていますか」は微増。 「あいさつするなど礼節を重んじた行動が出来ていますか」も微増である。

	<ul style="list-style-type: none"> ・多くのアンケート結果がいい方に微増であるので、今後も継続していく。 ・教職員の振り返りで、友達や先輩、後輩とのつながりが弱いとの意見が多くあった。
	<u>分析を踏まえた取組の改善</u> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の学校教育目標に「人とのつながりを意識した」という文言を入れ、学校教育活動を進めていく。具体的には協働する活動を多く取り組んでいく。
	<u>重点目標の達成状況、次年度の課題</u> <ul style="list-style-type: none"> ・「自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度の育成」という目標は徐々に達成できていると思われる。 ・継続していくことが大事であるので、引き続き継続指導していく。
学校関係者評価	<u>学校関係者による意見・支援策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・学校分析の生徒課題の「人とのつながりが弱い」、次年度さらなる横のつながり（学級・学年）、縦のつながり（先輩・後輩）を意識した取組と指導をしていくことに賛同を得た。 ・手伝えることがあれば、連絡してくださいとのこと。

（３）「健やかな体」の育成に向けて

<u>重点目標</u> <p>生涯にわたって自らの健康をコントロールし、改善していく力の育成</p>
<u>具体的な取組</u> <ul style="list-style-type: none"> ・運動することの楽しさを味わい、生涯スポーツにつながる体育学習や運動部活動のより一層の充実。 ・<u>食事、運動、休養・睡眠など調和のとれた生活習慣を身につけさせる。</u> ・<u>飲酒、喫煙、薬物の有害性・危険性や医薬品についての正しい知識の習得と行動化。</u> ・心身の健康の保持増進を目指した食教育の推進。 ・交通事故や水難事故、熱中症、転落事故等様々な危険から身を守るための知識や判断力を養う安全教育の充実。 ・地震・台風・大雨・火事等の災害は身近に起こりうるものとして「主体的に行動する態度」を育成する防災教育の推進。
<u>（取組結果を検証する）各種指標</u> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの分析結果 ・生徒・保護者アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ①規則正しい生活ができていますか。 ②スポーツなどで十分からだを動かしていますか。 ・教職員アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ①生徒は規則正しい生活ができていると思いますか。 ②生徒はスポーツなどで十分からだを動かしていると思いますか。

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・体力テストの分析結果 京都市に比べ、高い項目もあるが、全体的に劣っている。 特に女子の落ち込みは大きい。 ・生徒・保護者アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 規則正しい生活ができていますか。思う：生徒 70%，保護者 69%。 ② スポーツなどで十分からだを動かしていますか。思う：生徒 79%，保護者 75%。 ・教職員アンケートの結果 <ul style="list-style-type: none"> ① 生徒は規則正しい生活ができていますか。思う：教職員 63%。 ② 生徒はスポーツなどで十分からだを動かしていますか。思う：教職員 85%。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活ができていていると感じている生徒・保護者は約 7 割であるが、教職員の思うは 63・ %であることから、まだまだ不十分であると考えられる。 ・スポーツによる体の動かしも同様である。 ・7月アンケート以後に体育行事があったので、12月アンケートでの変化を待ちたい。 ・部活動ガイドライン、部活動規定により部活動の時間的制限があり、どのような変化があるのか、今後のアンケートを待ちたい。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・健康でいられるための知識をつけつつ、体力をつけていく必要を感じるが、今のところを維持したい。 ・体育授業において改善を図る。 <div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・健康でいられるための知識（防災・防煙・薬乱）はついたと思うか。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・モチベーションを上げる活動を取り入れてやってほしい。 ・部活動に関して、子ども負担軽減の主旨はわかるが、種目によってちがう、時間のみで測れるものではないのではないかな。 ・委員会から守るように指示されているから大変だとも思う。 ・外部指導員はどうやって認められているか。言ってもらえたら人材を探します。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「健康でいられるための知識（防災・防煙・薬乱）はついたと思うか」は、生徒 91%が好回答。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・知識を与えることはできていると思われる。ただし、100%でないという意味がないので、徹底的に理解させる必要がある。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教えるだけでなく、理解の確認をすること。 <div>重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ほぼ達成できていると思う。課題としては、徹底すること。 ・知識をつなげて、生きていける生徒の育成を目指したい。

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・今年地震に台風自然災害が多い年であった。何かあったときの対応を万全にとの意見があった。 ・生徒への対応策の指導を引き続き、よろしくとのこと。

（４）学校独自の取組

自己評価	重点目標
	<p>「小中一貫教育」における９年間の教育</p> <p>・「うずまさの人づくり ～次代の太秦地域を支え、作り上げていく人材の育成～」</p> <p>小中一貫した取組の中で、地域を愛し、学ぶ意欲に溢れ、未来を切り拓ける心豊かな児童・生徒を育成する</p>
	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・小中校長会、小中主任会のさらなる推進（中学校がイニシアティブをとってすすめる）。 ・小中合同研究授業、小中合同研修会の充実。 ・相互の行事等への積極的参加。 ・小中一貫で、道徳教育についての研究の推進。 ・小中一貫で、学校評価の在り方についての研究。 ・生徒会と児童会のさらなる連携。 ・小学生と中学生が、共に学びともに活動する場の創造。
	（取組結果を検証する）各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者にアンケート <p>○小学校と中学校が連携して生徒の育成をしていると感じますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <p>○小学校と中学校が連携して生徒の育成をしていると思いますか</p>

中間評価

自己評価	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者にアンケート <p>○小学校と中学校が連携して生徒の育成をしていると感じますか。 思う：生徒 76%, 保護者 74%。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員アンケート <p>○小学校と中学校が連携して生徒の育成をしていると思いますか。 思う：教職員 44%。</p>
	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者の「小中連携しての生徒育成」を「思う」と答えた率は、約 75%と高い。昨年度から計画された取組やその実践の成果と思われる。 ・教職員の「思う」と答えた率は、44%と生徒、保護者より少ない。これは、教職員への取組周知、認識ができていないのではと考えられる。職員会議等で周知することができない取組もあった。

	<div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの取組でC（チェック）、A（アクション：次回修正案作成）を行い、次回にさらなる効果が得られるように取り組む。 ・教職員への理解を進めるために、計画的に周知するようにする。そうした上で、教職員が一言でも生徒に声をかけることによって、より効果が得られると考えられる。
	<div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・PDCA を実行できたか（係の教職員）。 ・小中連携しての生徒育成の取組が認識できていたか。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・小中だけでなく、地域と学校も話していく必要を感じる。 ・地域と先生方との話し合い、交流も必要だと思う。

最終評価

	<div>中間評価時に設定した各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「教職員はPDCA を実行できたか」では、できたと思われる。 ・「小中連携しての生徒育成の取組が認識できていたか」のアンケート結果はできていたが50%で、あまり認識できているとは思えない。
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・少しずつだが小中一貫に向けて進んでいると思われる。 ・小学校は小学校で、中学校は中学校で取組を教職員や保護者・生徒に周知していく必要がある。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・上記課題に対して、これまで以上の小中のつながり、地域とのつながりが必要になる。まずは代表者である小中主任会で多く開き、つながりを強くしていく。また、広報活動にも力を入れたい。 <div>重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「小中一貫教育」における9年間の教育はまだまだ達成には遠いが、少しずつ近づいていると思われる。今後も忙しい中、小中で連携して、また地域とも連携して行く必要がある。
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ地域の学校なので、小中で協力して、子どもたちを育ててほしい。 ・何かあれば協力したい。